

ふれあいを楽しもう！



いないいないばあ

松谷みよ子文 瀬川康男絵
(童心社)

「いないいない」で顔をかくした動物が、次のページで「ばあ」と可愛らしく豊かな表情をします。いろいろな動物たちの「いないいないばあ」が、リズムカルにくりかえされます。

保育士さんからひとこと

赤ちゃんたちは、可愛い絵と繰り返しの言葉がある楽しい絵本や、やさしいリズムがある絵本が好きです。

0歳でもハイハイができるようになると、読み聞かせているうちに、ひざに乗ってきて、ごきげんでした。なかには、そのまま寝てしまう子もいたくらいです。

新米パパ、ママの中には、赤ちゃんとどんなふうにも遊んだらいいかわからない方もあるかもしれません。ぜひ、絵本を使って赤ちゃんとも遊んでみてください。ふれあい遊びや顔遊び、わらべうたも楽しいですよ。



くっついた

三浦太郎作・絵(こぐま社)

「きんぎょさんときんぎょさんがくっついた」「あひるさんとあひるさんがくっついた」明るい絵と繰り返しのリズムがとても楽しい。最後はお母さん、お父さんがくっついて…。みんなをしあわせな笑顔にしてくれます。



あかちゃん たいそう

鈴木まもる作(小峰書店)

「あかちゃんたいそう」を始めましょう。赤ちゃんのほっぺとねこさんのほっぺをくっつけて、すりすりすり。ぞうさんとは、お鼻とお鼻をくっつけて、くんくんくん。次々に登場する動物たちと、体をくっつけながらたいそうすると楽しいね。そして最後はおかあさんと...



かお かお どんなかお

柳原良平(こぐま社)

「かおにめがふたつ はなはひとつ」と、みんな同じものがついている顔なのに、ページをめくると、いろんな表情に出会えます。余分な背景などは一切ありません。ただただ、「かお」に眺め入ってしまう楽しい絵本です。



おててがでたよ

林明子作(福音館書店)

服を着ようとする赤ちゃん。頭からすっぽりと布をかぶって、あれ、なんにも見えない...。おててはどこかな？頭は？あんよは？日常のひとつまを丁寧になぞった絵本。最後までちゃんと一人で着られるかな？シリーズ「くつつあるけのほん」の1冊です。



おつむてん てん

なかえよしを作 上野紀子絵(金の星社)

「さっちゃんがおつむてんてん おくちはあわわ それをみていたにゃんこがまねた...」表情豊かな絵とやさしい言葉づかいの歌のような絵本。同じシリーズに『おくちはどーこ』『おきやくさんだーれ』があります。



ぴょーん

まつおかたつひで作・絵
(ポプラ社)

表紙をひらくと、かえるがぴょーん。ページをめくるごとに、こねこや犬がぴょーん、ぴょーんと、とびはねます。親子で楽しめる絵本。シリーズ「はじめのぼうけん」の1冊です。



あかちゃんのごきげんがよくなる 12のわらべうたえほん

小林衛己子編 あべなな絵
(ハッピーオウル社)

わらべうたを歌いながら赤ちゃんと遊びましょう。楽しく歌って、やさしくスキンシップして。赤ちゃんだけでなく、まわりのおともなもごきげんになります。かわいいうたで遊び方もわかりやすく紹介されています。



まてまてまて

こばやしえみこ案
ましませつこ絵(こぐま社)

幼い子は、追いかけて遊ぶのが大好き。ハイハイで逃げる子を、ぬいぐるみたちがつぎつぎに、まてまてと追いかけてきます。最後にみんなを追いかけてきたのは...。同じシリーズに『ととけこうよがあけた』『ちびすけどっこい』などがあります。

図書館からひとこと

赤ちゃん向けのおはなし会で、わらべうたを歌うと、赤ちゃんがとても惹きつけられる様子を見ます。わらべうたの狭い音域とゆったりしたリズムが、赤ちゃんの耳に快いのでしょうか。最近のわらべうたの絵本には楽譜もついていますから、誰でも歌えます。ぜひ、親子でお気に入りのわらべうたを見つけて、一緒に楽しんでください。

のりものだいすき



ある時期からのりものに夢中になる赤ちゃんたちがいます。のりものの図鑑も良いですが、、さまざまなタイプの、のりものを主題にした絵本にも出会わせてあげてください。



のせてのせて

松谷みよ子文 東光寺啓絵(童心社)

「ブー」と走るまこちゃんの自動車を「ストップ!」とうさぎが止めました。うさぎの次はくま、お次はねずみの親子です。みんなを乗せた自動車は、まっくらなトンネルへ。動物たちが次々に乗りこんでくる楽しさと、暗いトンネルでのドキドキが子供の心をつかみます。

ずかん・じどうしゃ

山本忠敬作(福音館書店)

パトロールカーや救急車など子供の大好きな自動車がいっぱいの絵本です。車に興味をもちはじめた子供にすすめてたい本です。



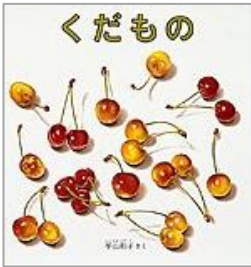
でんしゃ

バイロン・バートン作・絵
こじまもる訳(金の星社)

みんなが大好きないろいろな電車が
いっぱいの絵本です。力強い線と
鮮やかな色づかいが目をひきます。
シリーズ「バートンののりものえぼ
ん」の1冊です。



おいしいものだいすき！



くだもの

平山和子作(福音館書店)

左ページにくだもの丸ごとのイラスト。右ページで「さあどうぞ」と盛りつけされて出てきます。どのくだものもとでもおいしそうに描かれています。知っているくだものが出てくると、大人も子どもも思わず目を合わせてにっこりしてしまいます。



りんご

松野正子文 鎌田暢子絵
(童心社)

赤、黄色、ピンクの丸いりんごが三つ。皮をむくとどれも白いりんごです。切って芯をとると、おいそなりんごがお皿いっぱいになりました。身近なりんごの楽しい絵本です。



おにぎり

平山英三文 平山和子絵
(福音館書店)

ページをめくるうちに、おにぎりが食べなくなるから不思議。ほかほかのおにぎり、お弁当箱につめて、いってらっしゃい。おにぎりが出来上がっていく様子をやさしい色合いで丁寧にえがいています。

ボランティアさんからひとこと

子供たちはおいそな絵本が大好きです。読んでいると、近寄ってきて、まねっこで食べてくれる子もいます。月齢によっては口をあげたり、手を出して催促する子も。

おとなしい子は、まず、おかあさんがまねっこで食べてあげると、うれしそうに食べます。

絵と写真、どっちがいいの？



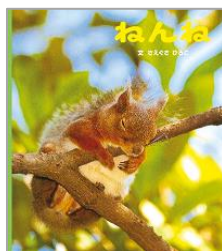
動物の毛並みやリアルな表情は写真ならではの魅力。ただし、ごく幼い頃は、陰影のある写真は、わかりにくい場合があります。一方、写実的な絵は、写真には無いあたたかみがあります。



どうぶつのおやこ

藪内正幸画(福音館書店)

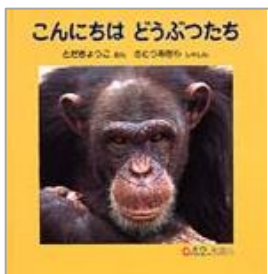
おなじみの動物たちが親子で紹介されています。正確な動物の描写は、赤ちゃんの目にもはっきりととらえられ、はじめての絵本として定番の1冊です。



ねんね

さえぐさひろこ文(アリス館)

「こぎつねねんね なかよしねんね」
「やまねのねんね まんまるねんね」。
きつねにライオン、かばにゴリラ...。
様々な動物たちの寝顔に心が安らぎます。



こんにちは どうぶつたち

とだきようこ案 さとうあきら写真
(福音館書店)

本物の動物の顔をアップでまじまじと見つめる機会って、実は少ないのでは？ オオカミ、コアラ、ゴリラ、ゾウなど、かわいいユーモラスな顔がアップで写されています。



どうやってねるのかな

やぶうちまさゆき作(福音館書店)

シマリス、コウモリ、フラミンゴ、ラッコ、オオカミ、ヒョウ、ラクダ、キリンの眠る姿がえがかれています。動物たちがどうやって眠るのか意外と知らないもの。ページをめくりながら動物の様々なポーズが楽しめます。

ことばのひびきを楽しもう！



赤ちゃんは言葉の響きに敏感です。リズムカルな言葉を聞いて、体ごと楽しむ赤ちゃんを見ると、不思議に大人まで楽しくなります。



ころころころ

元永定正さく(福音館書店)

色々な色をした小さな玉が転がり出しました。一列に並んでころころ、ころころ。階段を上ってころころ、おりながらころころ。でこぼこ道をころころころ終点までころころ.....。



もこもこもこ

たにかわしゅんたろう作
もとながさだまさ絵
(文研出版)

「しーん」「もこもこ」「によきによき」「ふんわふんわ」といった言葉と、イメージにぴったり合うきれいなグラデーションの絵が描かれています。想像力が一杯に広がっていきます。

少し大きくなったら、こんな本も (2さい半くらいから)

どこへいった?

マーガレット・ワイズ・ブラウン作

バーバラ・クーニー絵 うちだりさこ訳(童話館出版)

言葉がリズムカルで楽しい詩のようです。黒と白と赤の3色だけの色使いなのに、むしろ鮮やかな感じがします。最後のページではこの本そのものが出てきますが、読んでいる子供にとっては、絵本の中に自分も入りこんだ不思議な気がするのではないのでしょうか。





じゃあじゃあびりびり

まついのりこ作・絵(借成社)

「みずじゃあじゃあびりびり」「かみびりびりびりびり」。赤ちゃんは？「あーんあーんあーんあーん」。いろいろなものと音の組み合わせを赤ちゃん確かめましょう。同じシリーズに『ばいばい』『みんなでね』『おおきくなった』があります。



だるまさんが

かがくいひろさく

(ブロンズ新社)

丸々としただるまさんの登場です。「だ・る・ま・さ・ん・が」と体をゆらし、次のページでは「どてっ」。今度は「だ・る・ま・さ・ん・が」「ぶしゅー」。転んだり、へしゃげたり、のびたり、だるまさんのユーモラスな動きに思わずにっこりしてしまう絵本です。

ボランティアさんからひとこと

『だるまさんが』を読むと、だるまさんと一緒にお母さんの体もゆれてきて、何だか楽しそうです。

赤ちゃん向けのおはなし会で、読み聞かせをじっと聞いているだけだとお母さんも所在無げですが、赤ちゃんと一緒に何かやれる絵本は、楽しんでもらえるようです。



がたんごとな がたんごとな

安西水丸作(福音館書店)

緑の上を進む黒くてかわいい顔の機関車。がたんごとんと進むうち、「のせてくださいー」と、どんどんお客が乗って来て…。「がたんごとな」の繰り返しのリズムを楽しんでください。

せいかつの絵本



2歳頃には一日の流れがわかり、身近な生活場面を描いた絵本も、楽しめるようになってきます。



しごと

ヘレン・オクセンバリー作
(文化出版局)

赤ちゃんは毎日“しごと”をしています。食事、お散歩、お風呂など、いろいろな“しごと”をする赤ちゃんの動きや表情が、やわらかなタッチの絵で描かれています。シリーズ「あかちゃんのえほん」の1冊です。



こんにちは

わたなべしげお文
おおともやすお絵
(福音館書店)

「こんにちは」というあいさつをおぼえたこぐまが、まわりの人やものに次々とあいさつをします。やわらかなタッチの絵でこぐまのしぐさが愛らしい絵本です。この他「くまくんの絵本」シリーズには、『いただきます』『どろんどろんこ』などがあります。

少し大きくなったら、こんな本も（2さい半くらいから）

タンタンのずぼん

いわむらかずお作(偕成社)

タンタンのズボンはとてもすてき。ちょっと大きすぎてこまることもあるけれど、ブランコも電車ごっこもできるし、それにもっとすごいことができるのです。同じシリーズに『タンタンのしろくまくん』などがあります。





くまさん くまさん

ながかわりえこ作 やまわきゆりこ絵
(福音館書店)

「くまさん くまさん かおあらう」「くまさん
くまさん くまたいそう」くまさんのさまざま
な生活の場面が登場します。言葉の
リズムがとても心地よい絵本です。



こぐまちゃんのみずあそび

わかやまけん作(こぐま社)

みんなの大ききなみずあそび。じょう
ろでふんすい、はっぱのぼーと、おもし
ろいね。いたずらがいつばい。身近な
楽しい遊びが絵本になりました。シ
リーズ「こぐまちゃんえほん」の1冊で



おやすみなさいのほん

マーガレット・ワイズ・ブラウン文
ジャン・シャロン絵 いいしももこ訳
(福音館書店)

「よるになります。なにもかもみなねむ
ります。」小鳥も魚も羊たちも。自動車
や飛行機も眠りにつく時間です。動物
や乗りものの絵はシンプルで見やすく、
くりかえしの言葉が子守唄のように心
地よい絵本です。

図書館からひとこと

生活のリズムがわかってくる頃、
絵本の中のできごとが、赤ちゃん
の実体験と重なり合います。
絵本の中の言葉を耳で聞いて覚
えてしまい、生活の中のとても的
確な場面でそれを流用し、周囲の
大人たちを驚かせることがありま
す。
読み聞かせている大人には、ささ
やかな楽しいプレゼントです。

みじかい みじかい おはなし



2歳後半になってくると、ごく短いストーリーがあるものも楽しめるようになってきます。少しずつこんな本も試してみてください。



おつきさま こんばんは
林明子作(福音館書店)

「よるになったよ」「おそらがくらいくらい」「おや やねのうえがあかるくなった」静かにあらわれたおつきさま。そこへ雲さんがやってきて…。シルエットで浮かび上がったネコの動きや、雲とのやりとりが楽しい絵本。シリーズ「くつくつあるけのほ

たまごのあかちゃん
かんざわとしこ文
やぎゆうげんいちろう絵
(福音館書店)

「たまごのなかでかくれんぼしているあかちゃんはだあれ？でておいでよ」という呼びかけに対して、ひよこ、かめ、きょうりゅうなどが次々に出てきます。絵もシンプルで楽しい絵本です。

つみき

中川ひろたかぶん
平田利之え(金の星社)

縦開きの絵本をめくると、一つ、二つ、三つと、つみきが積み上げられます。次々に積まれるつみきたちの顔も満足そう。ところが、十個まで積んだてっぺんに、てんとう虫がとまって…。単純なストーリーで、積んではこわすことが大好きな赤ちゃんたちの心をつかみます。





きんぎょが にげた

五味太郎作（福音館書店）

きんぎょがにげだしちゃった！いろいろな物の中にまぎれて上手にかくれています。どこにいるのかみつけられるかな？きんぎょ探しが楽しい絵本です



だんごももんちゃん

とよたかずひこ作・絵（童心社）

ももんちゃんはいそいでいます。だんごこだんごこ...。走って走って、川をわたり、山を登って、いそいでいそいで行く先は？思わず笑みがこぼれ、最後はももんちゃんをぎゅうっとだきしめてあげたくなります。「ももんちゃんあそぼう」シリーズの1冊です。



ひまわり

和歌山静子（福音館書店）

ちいさなたねが、土の中からめをだして、だんごこ、だんごこのびていきます。太陽の光をいっぱいあび、雨にうたれ、風に吹かれ、おひさまのような大きな花をさかせました。見開きいっぱいのひまわりは迫力満点です

図書館からひとこと

1ページごとしか楽しめなかった赤ちゃんが、少しずつ、めくったページの連続の意味がわかるようになってきます。楽しめる絵本の種類も増えてきますし、読み聞かせる大人のほうも、読む楽しみ、選ぶ楽しみが増してきます。



かさ

松野正子作(福音館書店)

みんながさしているのは、どんなかさ？赤いかさ？青いかさ？それとも黄色いかさかな？雨ふりの日のなんだか少し特別な、うきうきする気分が伝わってきます。子供たちの元気な顔もとても楽しい絵本です。

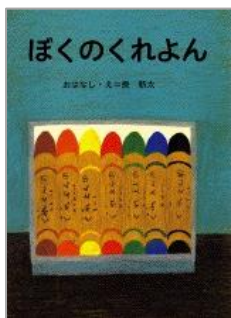


ぎったん ばっこん

なかえよしを文 上野紀子絵
(文化出版局)

動物たちのシーソー遊びを描いた絵本。シーソーにのる動物が1匹ずつ増えるごとに「ぎったんばっこん」が繰り返されます。遊びの楽しさが伝わってくる絵本です。

少し大きくなったら、こんな本も
(2さい半くらいから)



ぼくのくれよん

長新太話・絵(講談社)

とっても大きなクレヨン、なんとゾウのクレヨン。このクレヨンでゾウが絵をかくと、動物たちは大さわぎ。ダイナミックな美しい絵、楽しいお話。子供の心をとらえる1冊です。



ちいさなうさこちゃん

ディック・ブルーナ文・絵
いしいもこ訳(福音館書店)

ふわふわさんとふわおくさんに、赤ちゃんが生まれました。うさこちゃんです。明るい色づかいに黒いふちどりの絵。日常の出来事がきれいなやさしい言葉でつづられています。シリーズ「こどもがはじめてであう絵本」の1冊目にあたります。